

新議長に原口氏（熊本）

補正予算など41議案上程

6月定例熊本市議会を7日、開会し、17億1799万円を追加する2021年度一般会計補正予算など41議案を可し、後任に原口亮志

は前年同期比15・2%減の3801億6837万円。主な補正は、新型コロナウイルス関連経費が15億4119万円。このうち、ワクチンの保管や配送、集団接種会場の医療従事者確保などに12億6117万円を充てる。

市防災基本条例（仮称）制定に向けた検討委員会の開催経費など200万円も計上。防災の専門家や地域の代表者ら10人程度で構成し、本年度中の条例制定を目指す。

市病院事業条例の一部改正は、熊本市病院が今夏にも「地域医療支援病院」に再承認されるのを見越し、紹介状なしの初診時などにかかる「選定療養費」を、国の規程に基づき増額する。

副議長の上田芳裕氏（54）＝市民連合、中央区、当選4回＝の辞任申し出も許可し、後任に園川良二氏（64）＝公明、北区、当選3回＝を選んだ。

（河内正一郎）

新正副議長に聞く

コロナ禍 活発な議論促す

新型コロナウイルスの感染拡大で市民と接する機会が減り、議会の活動が抑制される中、第58代議長に就

議長 原口亮志氏

任した。「政治の真価が問われており、活発な議論を求めていく」と気を引き締める。

た熊本市役所本庁舎の在り方を巡る問題では、特別委の委員を務めた。市議の中でも賛否が分かれ、「議会全体としてどう対応すべきか意識し、市民の理解が得られるようにまとめたい」と強調する。

熊本市議会の新議長に選ばれた原口亮志氏（64）＝熊本自民＝と、新副議長の園川良二氏（64）＝公明＝に抱負を聞いた。



二元代表制の一翼を担う議会の役割について、「市民の声を市政に届け、施策に反映させるのが最大の使命」と言明。コロナ対策に関する専決処分が増える中、「市民生活に関わる施策は原則、議会が議決するべきだ。臨時会などで積極的に対応したい」と意気込む。

北区植木町の自宅で妻（62）、ネコ2匹と暮らす。趣味はツーリング。コロナ禍で自宅で過ごす時間が増えたのをきっかけに、朝食作りを担当。「ぬか漬には自信がある」

（河内正一郎）

「耐震不足」と指摘され